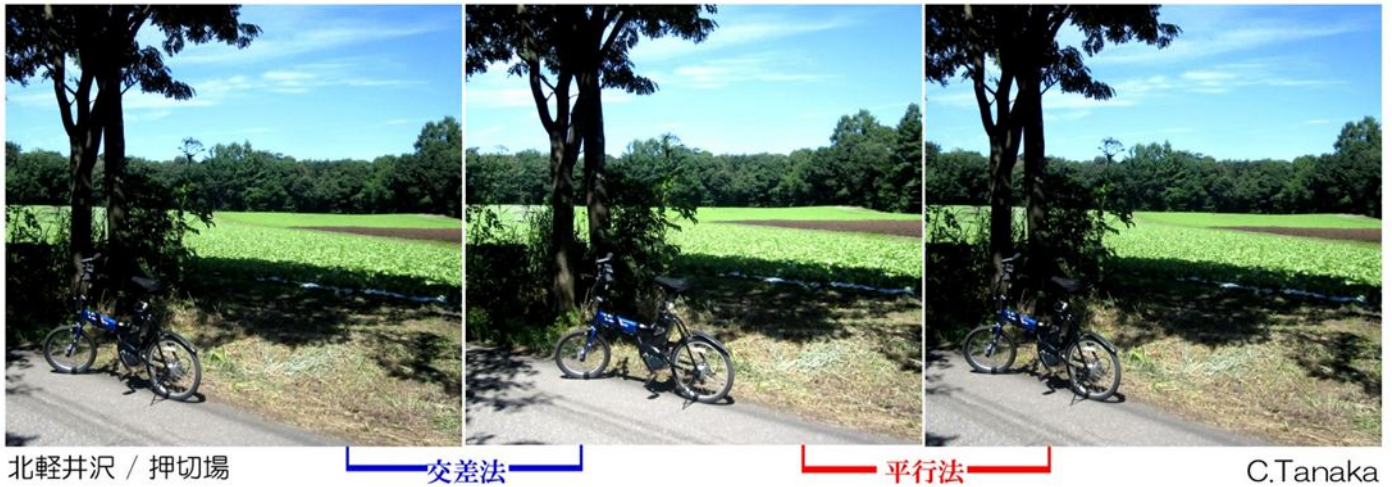


「ステレオグラム (5)」

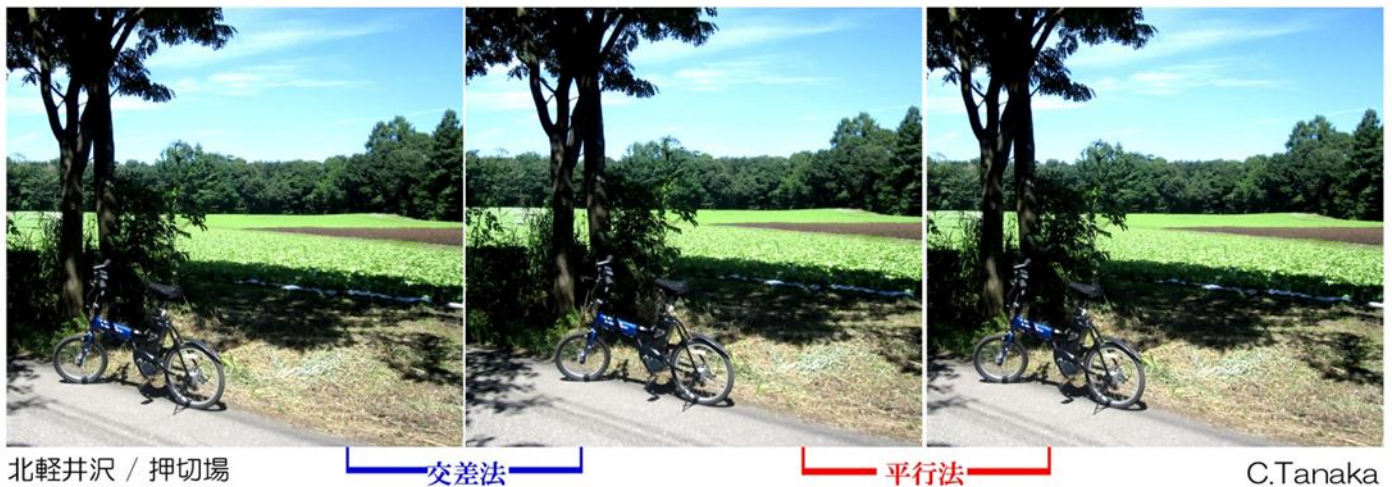
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

コンパクトデジカメによる風景写真でも、ステレオグラムが撮影できることはわかった。次の課題は、「一体どのぐらいずらして撮影するか?」ということである。多くの動物は、2つの目で対象を見て、対象までの距離や立体感を認識している。しかし、犬や猫はステレオグラムを見ないので(ただしミーアキャットは見る可能性がある)、ここでは我々ヒトの眼について考えてみた。

ヒトの2つの眼球中心間の距離は、およそ6~7cmである。そのわずかなズレ(視差)で、対象物や風景を立体的に認識している。私は最初、その認識があまりなく、1枚目の写真と2枚目の写真を、数メートルもずらして撮影していた。これは失敗であった。



これがその失敗作である。上の画像は、中央の写真を撮ったあと、左右の写真(同じ写真)を1メートル程度移動して撮っている。このぐらいが適正と思ったが、実際に立体視をしてみると、あまりうまくいかない。近景と遠景がズレすぎていて、うまく画が重ならない。重なっても立体感に乏しく、眼も非常に疲れる。更に、どうしても構図そのものにズレが生じるので、2つの写真が同じにならない。この写真でも自転車の位置や、奥の森の範囲がズレてしまっている。



こちらは、眼球の感覚(7cm程度)と、わずかにずらして撮った写真だ。近景(自転車や樹木)が手前に浮きだし、遠景(遠くの森)が奥に引っ込み、非常にうまく立体視ができる。近景のある構図の場合、2枚の写真は10cm以下の視差で撮影すればうまくいくことがよくわかった。